

公益社団法人日本フィランソロピー協会
フィランソロピー始動30周年記念フォーラム
Philanthropy
1991-2021



総合テーマ

健全な民主主義社会形成における
フィランソロピーの今後の役割

第1回

『組織の中で個人を生かす』

2021. **11.17** (水)
15:00 ~ 17:00 (14:30 開場)

《日本フィランソロピー協会の活動紹介》
『企業従業員のためのボランティアマッチング』

《パネルディスカッション》



パネリスト

嵯峨生馬 氏
認定NPO法人
サービスグラント
代表理事



濱松 誠 氏
ONE JAPAN
共同発起人・共同代表



モデレータ

長島 剛 氏
多摩大学 経営情報学部教授

第2回

『誰も取り残さない社会の実現に向けて』

2021. **12.16** (木)
15:00 ~ 17:00 (14:30 開場)

《日本フィランソロピー協会の活動紹介》
『農福連携事業』

《パネルディスカッション》



パネリスト

村木厚子 氏
津田塾大学客員教授
元厚生労働事務次官



井村良英 氏
特定非営利活動法人
育て上げネット

モデレータ

野澤和弘 氏
植草学園大学副学長 (教授)
毎日新聞客員編集委員



第3回

『個人の寄付文化醸成に向けて』

2022. **1.20** (木)
15:00 ~ 17:00 (14:30 開場)

《日本フィランソロピー協会の活動紹介》
『誕生日寄付』

《パネルディスカッション》



パネリスト

奥田知志 氏
NPO 法人抱樸理事長
東八幡キリスト教会牧師



米良はるか 氏
READYFOR 株式会社
代表取締役CEO

モデレータ

山田 泰久 氏
一般財団法人
非営利組織評価センター
業務執行理事



《開催方法》

3回とも **オンライン** のみで開催します。

参加方法は、お申し込みいただいた方に別途メールにてお知らせいたします。

《参加お申込み》 <https://www.philanthropy.or.jp/30ans>
または右の QR コードからお申込みください。

《参加費》

無料



《登壇者プロフィール》

嵯峨 生馬 (さが・いくま)

1974年、神奈川県横浜市生まれ。株式会社日本総合研究所研究員を経て、2005年、日本におけるプロボノの草分けとして「サービス・グラント」の活動を開始。2009年にNPO法人化、代表理事に就任。企業人等の経験・スキルを活かした社会貢献活動「プロボノ」のコーディネートを通じて、NPO・地域団体等の基盤強化を支援。幅広い企業・行政・財団等と連携し、さまざまなプロボノ活動のモデルの開発に取り組んでいる。現在、東京および関西を拠点に6,500名以上のプロボノワーカーの登録を集め、累計1,000件以上のプロボノプロジェクトの運営実績を有する。著書に『プロボノ～新しい社会貢献、新しい働き方』（勁草書房2011年）ほか。

濱松 誠 (はままつ・まこと)

1982年京都生まれ。2006年パナソニックに入社。海外マーケティング、人事、ベンチャー出向などを経て、2018年に同社を退職。本業の傍ら、2012年に組織活性化をねらいとした有志の会「One Panasonic」を立ち上げる。2016年、NTTやトヨタなど、大企業で同じ課題意識を持つ者たちを集め「ONE JAPAN」を設立、代表に就任。現時点で約50社の有志が参画。ミッションは「挑戦の文化をつくる」。日経ビジネス「2017年次代を創る100人」に選出。夫婦で世界一周の旅を経て、現在は企業の人材開発・組織活性化の支援に従事。ONE JAPANとして「仕事はもっと楽しくできる 大企業若手50社1200人 会社変革ドキュメンタリー」（プレジデント社、2018年）を上梓。

長島 剛 (ながしま・つよし)

法政大学大学院社会学研究科卒業。多摩中央信用金庫（現多摩信用金庫）入庫。2011年価値創造事業部長、2017年地域連携支援部長、2018年融資部長。自治体や大学・高専、NPO等のプラットフォームやネットワークづくりに多数関わる。公益社団法人日本フィランソロピー協会理事。多摩CBネットワーク世話人。2019年4月より多摩大学経営情報学部教授（地域金融論・事業デザイン論・まちづくり最新事情・多摩学など）。

村木 厚子 (むらき・あつこ)

1955年高知県生まれ。土佐高校、高知大学卒業。1978年労働省（現厚生労働省）入省。女性政策、障がい者政策などに携わる。2009年、郵便不正事件で有印公文書偽造等の罪に問われ、逮捕・起訴されるも、2010年無罪が確定し復職。2013年から2015年まで厚生労働事務次官。退官後は津田塾大学客員教授のほか、伊藤忠商事株式会社社外取締役などを務める。また、累犯障害者を支援する共生社会を創る愛の基金や、生きづらさを抱える若年女性を支援する若草プロジェクトの活動に携わっている。著書に「日本型組織の病を考える」（角川新書）「あきらめない」（日経BP社）など。

井村 良英 (いむら・よしひで)

若者支援歴20年以上（不登校／中退／非行少年／ひきこもり等）。2003年、国策（若者自立挑戦プラン）として若者支援が始まる以前から、社会的排除状態にある若者たちの自立支援に関わり続け、自治体の若者支援施策や社会に開かれた学校経営に関するコンサルテーションを行う。困難を抱える若者自身と取り巻く環境の両方に変化をもたらすため、日々奔走している。

野澤 和弘 (のざわ・かずひろ)

1959年静岡県熱海市生まれ。早稲田大学法学部卒業、毎日新聞入社。いじめ、引きこもり、児童虐待、障害者虐待などを報道する。論説委員（社会保障担当）を11年間務め、2019年10月退社。現在は一般社団法人スローコミュニケーション代表、東京大学「障害者のリアルに迫るゼミ」主任講師、上智大非常勤講師、社会保障審議会障害者部会委員、障害者政策委員会委員なども。主な著書に「スローコミュニケーション～わかりやすい文章、わかちあう文化」（スローコミュニケーション出版）、「なんとなくは、生きられない。」「障害者のリアル×東大生のリアル」「条例のある街」（ぶどう社）、「あの夜、君が泣いたわけ」「殺さないで～児童虐待という犯罪」（中央法規）、「わかりやすさの本質」（NHK出版）、「福祉を食う～虐待される障害者たち」（毎日新聞社）「なぜ人は虐待するのか」（Sプランニング）など。

奥田 知志 (おくだ・ともし)

1963年生まれ。関西学院神学部修士課程、西南学院大学神学部専攻科をそれぞれ卒業。九州大学大学院博士課程後期単位取得。1990年、東八幡キリスト教会牧師として赴任。同時に、学生時代から大阪釜ヶ崎で始めた「ホームレス支援」に北九州でも参加。事務局長等を経て、北九州ホームレス支援機構（現 抱樸）の理事長に就任。これまでに3640人（2021年3月現在）以上のホームレスの人々の自立を支援。

米良 はるか (めら・はるか)

1987年生まれ。慶應義塾大学経済学部、同大学院メディアデザイン研究科（KMD）卒業。2011年3月29日に日本初・国内最大級のクラウドファンディングサービス「READYFOR」をスタート。2014年に株式会社化し、代表取締役CEOに就任。World Economic Forum グローバルシェイパーズ2011に選出、日本人史上最年少でダボス会議に参加。「人生100年時代構想会議」「未来投資会議」等の民間議員に選出、現在は「デジタル改革関連法案ワーキンググループ」の民間構成員を務める。

山田 泰久 (やまだ・やすひさ)

群馬県高崎市出身、慶應義塾大学文学部卒（フランス文学専攻）。1996年日本財団に入会。福祉分野の助成業務に携わる。2009年から公益コミュニティサイト「CANPAN」の担当になり、NPO×情報発信、助成金、IT活用をテーマに様々なNPO支援の活動に取り組む。助成金については、NPO向けの助成金データベースの運用や助成財団による勉強会やセミナーの開催を行う。2016年4月、一般財団法人非営利組織評価センターの設立とともに業務執行理事に就任し、非営利組織の組織評価・認証制度の普及にも取り組んでいる。